

大学入試センター試験、 そのどこが悪いのか？

—センター試験批判の系譜と 新テスト構想—

東京工業大学
大学院社会理工学研究科
前川眞一

テスト学、特にテスト理論的観点

- テスト規準（テストスタンダード）との関連

- ◆ http://www.jartest.jp/test_standard.html

- 大学入試センターの公開情報

- ◆ <http://www.dnc.ac.jp/data/index.html>

トップページ

学会紹介

入会案内

出版物

学会誌

イベント

テスト規準について

📍 はじめに

📍 基本条項とその解説

📍 テスト規準作成委員会

関連学会リンク

はじめに

[トップ](#)>[テスト規準について](#)>はじめに

はじめに

繁樹算男(テスト規準作成委員会委員長)

テストは今日、さまざまな形で現代社会生活に浸透しており、個々人の人生に重要な意味を持つものとなっている。したがってテストに関係する人はすべてそれを使用する際の社会的意義を自覚し、それがもたらす結果について責任を持たなければならない。

人の意思決定や行為の判断は多角的に集められた多様な要素を比較総合してなされるものであるが、その中においてテストが提供する情報は一つの重要な役割を担っている。しかし、テストがもたらす情報は完全なものではなく、作成された条件によっても変わるものである。不完全な情報から常に正しい決定を望むことはできず、そのためテスト情報を利用する者、またその情報を提供する者双方に不幸な結果を生む危険がある。テストにかかわる人はすべて、それぞれの立場において、そうした危険をできるだけ減らすように努力し、テストの扱いはそれだけに過度に依拠することなく常に慎重でなければならない。テストを扱う先進諸国諸団体では、テスト関係者のためのテスト規準がすでに用意されている。

テスト規準（テストスタンダード）

- テストを扱う先進諸国諸団体では、テスト関係者のためのテスト規準がすでに用意されている。
- わが国でも、個人に対する人権意識の高まりと急速な高度情報化社会の進展にともない、成熟した社会の証として、テストを扱う専門家集団が共通理解の拠り所となるようなテスト規準の必要性が痛感された。そこで、日本テスト学会は、テスト規準の必要性に鑑み、
日本のテスト慣行に即したテスト規準
を作成した。このテスト規準は、テストの開発、実施、利用、記録、評価などのテストに関する手続きにおける指針を示す51個の基本条項から成っている。

テスト規準（テストスタンダード）

- 基本方針として、強調された視点をあげるとすれば、それはテスト活動が持つべき条件としての手続の公正性、透明性、そしてその**道具として使われるテストの品質保証**であり、それを裏付けるためのデータ（証拠）の開示と受検者に対する説明責任である。
- これらは、**テスト関係者が受検者に対して信頼を得るための必要条件**であるばかりでなく、同時にそれは受検者にも受検者としての責任と権利義務を認めさせるものである。

テスト規準（テストスタンダード）

■ 1.2 測定内容の定義と構造化

開発者は、測定しようとする能力、学力、性格、行動などの特性を明確に定義し、それが表現できるような適切な尺度を構成する。なお、測定しようとする特性が複数の下位の特性で構成される場合は、その構造を明らかにし、それらも測定できるように複数の下位尺度を設計する。

■ 1.7 尺度の標準化

汎用されるテストは、規準とする集団を明確に定め、その集団における相対的位置づけによって尺度化することが望ましい（この手続を「標準化」という）。標準化においては、用いた標本と標準化手続について記録し、公開する。また、標準化の結果は定期的にその有効性を確認し、改訂の必要性の有無を検討する。

テスト規準（テストスタンダード）

■ 1.8 複数の尺度得点の比較

複数のテストによって同一受検者の特性比較を行う場合には、素点のままでの比較は正確な判断を損なうおそれがあるので、**素点を比較可能な尺度得点に変換すべきである。**

■ 1.9 複数のテストの共通尺度化

同一の特性を測定する2種以上のテストの採点結果を比較する場合や、実施時期が異なるテストの採点結果を比較する場合には、それらの結果が相互に比較できるように**尺度得点に変換されている必要がある。**

テスト規準（テストスタンダード）

- 1.10 尺度得点の確からしさの推定と公開

開発者は、構成された尺度得点がどの程度安定しているかを、しかるべき統計指標を算出して検討し（この過程を「**信頼性の確認**」という）、その結果を**公開すべきである**。なお、テストが複数の下位テストから構成される場合は、それぞれの下位テストごとに検討し、その結果を公開すべきである。

- 1.11 尺度得点の適切さの確認

開発者は、構成された尺度が測定内容として定義された特性をどの程度適切に測定しているかを多面的に検討し（この過程を「**妥当性の確認**」という）、その結果を**公開すべきである**。

テスト規準（テストスタンダード）

■ 3.5 統計情報の公開

テストの品質を検証し、また改善の方向を見出すために、**テスト結果の統計情報が公開され、活用されるべきである。**

■ 4.2 テスト実施後の調査と検討

テストの開発者、実施者、利用者は、テストが意図された特性を測定していたか、実施目的、対象者、適用場面に適切であったか、テストの利用がどのような影響を及ぼしたかなど、過去の資料と照合しつつその結果について調査分析し、**得られた知見も開示するよう努める。**

テスト規準（テストスタンダード）

■ 4.3 公的な性格が強いテスト結果の共同分析利用

特定個人の処遇を問題にしない公的な性格が強い大規模テストの結果情報は、**公共的情報資産**として提供されるべきである。

■ 4.4 テスト結果の再利用のための保管情報

テストの開発者，頒布者，利用者は，協力して効果的な利用事例や利用後の実証的なデータの解析結果を蓄積し，テストや尺度の意味内容に関する**知識を共有するよう努める**。また，これらのデータが正しく解釈されるよう，実証の過程を詳細に記録しておく必要がある。

大学入試センターの公開情報

過去のデータ

トップ > 過去のデータ

全画面印刷  本文印刷 

過去の試験情報

過去の試験詳細データをご紹介します。

- 平成27年度試験
- 平成26年度試験
- 平成25年度試験

過去3年間分の試験問題

過去3年間分（本試験）の試験問題及び正解を掲載しています。

- 平成27年度本試験の問題
- 平成27年度本試験の正解
- 平成26年度本試験の問題

試験問題評価委員会報告書

試験問題評価委員会報告書について掲載しています。

- 平成27年度試験（本試験）
- 平成27年度試験（追・再試験）
- 平成26年度（本試験）

大学入試センターの公開情報

平成27年度 大学入試センター試験（本試験）平均点等一覧

受験者数 530,257人

教科名	科目名	受験者数	平均点	最高点	最低点	標準偏差	
国語 (200点)	国語	501,415	119.22 (59.61)	200 (100)	0 (0)	33.39 (16.69)	
地理歴史 (100点)	世界史 A	1,376	47.37	100	0	19.46	
	世界史 B	84,053	65.64	100	0	22.67	
	日本史 A	2,409	45.64	100	0	17.82	
	日本史 B	155,273	62.01	100	0	18.16	
	地理 A	1,843	51.40	97	0	15.58	
	地理 B	146,846	58.59	100	0	15.22	
公民 (100点)	現代社会	76,698	58.99	100	0	16.70	
	倫理	30,740	53.39	97	0	16.45	
	政治・経済	45,300	54.79	100	0	15.66	
	倫理, 政治・経済	48,659	59.57	98	0	14.82	
数	数学① (100点)	数学 I	5,277	32.38	100	0	17.37
		数学 I・数学 A	338,406	61.27	100	0	20.31
		旧数学 I	627	33.18	100	0	19.64
		旧数学 I・旧数学 A	53,118	70.33	100	0	21.88
	数学 II	数学 II	4,944	23.83	100	0	13.61
		数学 II・数学 B	301,184	39.31	100	0	20.91



独立行政法人

大学入試センター

National Center for
University Entrance Examinations

文字



受験者・保護者の方

高校関係者の方

大学関係者の方



センター試験

過去のデータ

トップ > 過去のデータ > 過去の試験情報 > 平成27年度試験 > 実施結果等 >
試験問題評価委員会報告書（本試験） > 平成27年度試験問題評価委員会報告書

平成27年度試験問題評価委員会報告書（本試験）

○ 目次(55KB)

1. まえがき

まえがき(82KB) 

2. 平成27年度大学入試センター試験実施結果の概要

受験者数等統計資料及び本試験平均点等一覧(119KB) 

3. 試験問題評価委員会報告書

試験問題評価委員会報告書(71KB) 

試験問題評価委員会報告書

- 独立行政法人大学入試センターでは、良質な試験問題を作成していくための努力の一環として、センター試験問題の事後的な評価を行う、試験問題評価委員会を設置しております。当委員会は、各都道府県教育委員会等から推薦された高等学校教員から成る外部評価分科会と、試験問題を作成した教科科目第一委員会委員から成る自己点検・評価分科会の二つの分科会から構成され、それぞれに分科会長を置いております。
- 試験終了後、大学入試センター試験で出題された試験問題の内容、程度、出題方法等について、まず、外部評価分科会が評価を行い、さらに、各試験科目に関連が深い関係教育研究団体からも毎年、意見・評価をいただきます。
- これらの意見・評価を問題作成委員で構成される自己点検・評価分科会が受け止め、それらを十分に咀嚼したうえで、試験問題作成者としての自己点検・評価の見解を御提出いただき、当該年度の『大学入試センター試験 試験問題評価委員会報告書』を作成いたします。

大学入試センターの公開情報

■ 外部委員の評価の観点（物理、化学）

- (1) 高等学校学習指導要領に示す範囲で、偏りなく出題されているか。
- (2) 高等学校における学習の達成の程度を見るにふさわしい問題であるか。
- (3) 基本的な知識・理解を問う内容から、思考力を問う内容までバランスがとれているか。

単に知識を問う問題でなく、科学的な思考力や応用力などを見る問題が含まれているか。

- (4) 実験・観察・探究活動など、学校における授業に重きを置いているか。
- (5) 難易の程度・形式・設問数・配点等が適切であるか。
- (6) いわゆる連動問題（前問の結果を使って解く問題）、あるいは類似の問題が多くないか。

大学入試センターの公開情報

■ 作題方針と問題作成時の具体的な留意点

物理

- (1) 高等学校学習指導要領に準拠して出題する。
- (2) 特定の事項や分野に偏ったり、高校教育の範囲を超えたりしないように留意し、「物理」の全分野から偏りなく出題する。
- (3) 教科書に広く採用されている事項から出題し、使用教科書により著しい不公平が生じないように配慮する。
- (4) 選択問題の難易度については同程度を目指す。
- (5) 学習の達成度を多角的に判定するため、各分野において、基礎的な問題と標準的な問題をバランス良く出題するとともに、思考力・応用力・総合力等を測定する問題も適度に出題する。
- (6) 計算力を問う問題とともに、グラフや図を読み取る問題を設ける。また、目新しい状況設定の問題と、受験者が見なれた問題をバランス良く出題する。
- (7) 数値選択、文字式選択、グラフ選択、図選択、文章・語句選択など、多様な解答形式が含まれるようにする。
- (8) 問題文は、受験者に誤解が生じないようにするとともに、できるだけ簡潔にする。
- (9) 平均点を6割程度にするという大学入試センターの方針に留意する。

大学入試センターの公開情報

■ 化学

(8) **平均点が60点程度**で大きな変動がないように難易度に留意して作題する。

(11) 詳細な評価が可能になるように、高得点者を識別できる問題、低得点者を識別できる問題、全体として**識別力のある問題**を取り混ぜてバランス良く出題する。

大学入試センターの公開情報

■ 数学

(6) センター試験は長年継続してきたため、技巧を避けた素直な問題を作成しようとするれば、過去問題のいずれかとある程度類似することは避け難い。しかし、熟練度ではなく数学的思考力を正当に評価するため、**極力新しいタイプの問題を追求する。**

(7) 本試験と追・再試験の間で**難易度に大きな差が生じないようにする。**

大学入試センターの公開情報

■ 国語

平成27年度の受験者は、昨年より2,172人減の501,415人、平均点は20.55点上がって119.22点（得点59.61%）であった。過去最低であった昨年度からは大幅にアップし、国語の問題の**難度**が**適当**になったといえる。受験者の学力を測るという試験本来の役割は**確実に果たした**。

平成26年度の受験者は、昨年より12,566人減の503,587人、平均点は2.37点下がって98.67点（得点率49.33%）と、過去最低であった。得点率が50%をわずかに超えた昨年をさらに下回ったことに加え、最高点が満点ではなかったこと（195点）、センター試験は各科目の平均点6割を目安としていることなどから、「国語」の問題は**難度**が高いという印象を受験者に与える可能性も考えられるが、受験者の学力を測るという試験本来の役割は**確実に果たしており**、その意味で、実質的な難易度は十分に許容される範囲の内にあると判断する。

- 大学入試センター試験、
そのどこが悪いのか？

大学入試センター試験、 そのどこが悪いのか？

- 何を測っているのかが不明確。
（基礎知識 or 思考力・応用力？）
- 試験の評価の観点から、
テスト学、特にテスト理論、心理測定的観点が、
ほとんど欠落している。
治外法権は無い。
- テスト学、テスト規準への無関心。

